

ちほの
おしゃべりタイム



マース
MaaSで自由自在



オフィスPrima 代表
フリーアナウンサー
ビジネスマナー講師

とおる
ちほ
透 千保

東海地方の各放送局(岐阜放送/ぎふチャン、FM GIFU、東海ラジオ、メ〜テレなど)で数多くの番組やニュースを担当。司会、ナレーションの他、名鉄電車、名古屋市営地下鉄など、公共交通機関のアナウンス放送に携わる。一方、企業・大学において、ビジネスマナー、電話応対などの研修講師を務め、人材育成に取り組んでいる。

長年にわたり、私鉄、地下鉄、バスなどの公共交通機関で、車内やホームでの案内アナウンスに携わっています。乗客の皆様にも、路線や目的地を正確に伝え、迷うことなく移動していただくことが最も大事です。そして、耳に心地よく、乗車時間を快適に過ごしていただけるようにとマイクに向かっています。

交通業界でいま注目されているのが、MaaS (Mobility as a Service : ひとつのサービスでの移動) という考え方。バスや電車、タクシー、飛行機など、複数の交通手段やサービスを最適に組み合わせて、ルート検索から予約・支払いまでを総合して利用できる概念です。

2016年にフィンランドで、世界最初のMaaSアプリ「Whim」が開発されると、首都ヘルシンキでは公共交通機関を使う人が増えました。一定の利用料を支払うことで市内の交通機関が無制限に利用できるため、渋滞や環境問題の解決につながった利点もあるようです。その流れは各国に広がり、日本でも各交通機関で独自のアプリが開発されています。

岐阜市では「スマートシティぎふ推進プロジェクト」が、民間事業者や学識経験者を加えた組織によって計画され、誰もが便利に利用できる移動手段の確保を目指し、MaaSに向けた取り組みが進められています。その第一歩となるのがモバイルチケット。例えば、レシップ株式会社が開発したアプリ「QUICK RIDE」で、1日乗車券をあらかじめスマートフォンで購入し、乗務員に見せるという仕組みです。すでに岐阜バスで実証実験が行われており、買い物や通院だけでなく、普段行かない場所に気軽に出かけられると好評です。

久しぶりの休暇。旅先を想像してみてください。駅に降り立った時には、巡ろうと思う観光地までの移動手段や観光施設、宿泊までもが全て手配され、スマートフォンに表示されています。その予定は訪問先にも通知されており、あなたの到着を歓迎してくれます。料金の支払いも、スマートフォンをかざすだけ。観光案内所で地図をもらったのに、道に迷って時間を無駄にする苦労は、もう必要ありません。こんな仕組みがあれば、もっとその土地のよさを知ることができ、新しい体験が得られそうです。

さらには、こうしたモビリティのサービスを、医療、教育、商業、防災など様々な分野と繋げることで、どんな遠隔地や過疎地であってもストレスフリーに移動でき、人の流れを加速して、人が集うことで各地に賑わいを取り戻すこともできそうです。交通を軸につながることで、私たちの暮らしがよりよくなる。将来のモビリティ社会の方向性が見えてきたように思います。しかし、ますます便利になる一方で忘れてはいけないのは、人と人の触れ合いです。車内や駅ホームのアナウンスは、人ならではの優しさやあたたかさが伝わるように心がけています。こんなことを思い巡らせていたら、そろそろ旅に出てみたくなりました。